

女性議会



報告書

Vol.4 2011

男女共同参画社会の実現を目指して、女性の視点から提案を行うことにより、女性の市政への参画を積極的に推進し、多くの市民が市政やまちづくりについて一層関心を深める機会とすることを目的に、平成23年度南アルプス市公開女性議会が、平成23年11月19日（土）に開催されました。今回は議場を飛び出し「あやめホール」において開催され、公募者を含め、各地区女性団体連絡協議会から推薦を受けた19名の女性議員が市政の一般質問を行いました。市長をはじめとする市の執行部の答弁等の内容について次のとおり報告いたします。

議長あいさつ

一日議長 清水 祝子さん



南アルプス市女性議会は、市政の政策方針決定の場へ、女性が参画する機会をもつことによって、市政に対する理解を深めると共に、女性の資質向上を目的として開催しております。

平成23年度の女性議会は、多くの皆さんに参加していただくために、公開形式により「あやめホール」で行ないました。公募や女性団体より推薦された方々19名の皆様が女性の視点に立って、生活に密着した諸問題について質問を行ないました。この提言が、今後の市政に反映され、明るく住みよい南アルプス市の発展に繋がりますよう期待を致しております。また、女性議会により多くの女性の方々が参加され、充実した女性議会が継続されますことを願っております。

この度の女性議会開催に当たり、市当局並びに市議会の皆さまのご支援ご協力を頂きましたことに厚くお礼を申し上げます。

質問

大堀 ゆき子さん

1. 避難所としての公共施設について

(1) 災害時、防災拠点となる公共施設を避難所として使用する際に、何が準備され、どのように管理されているか。

【答弁】

1 - (1) 現在、市では34の学校施設等を避難所として指定している。備蓄資材等の管理については、管理上の問題もあるため、避難所には直接置かず、各支所・市内の防災倉庫等7箇所へ備蓄し、有事の際には、迅速に搬送できる体制を整えている。

関連質問

篠原 操さん

1. 八田地区農業者トレーニングセンターについて

(1) 八田地区農業者トレーニングセンター（八田小体育館）の現状と対策はどうなっているか。

【答弁】

1 - (1) 八田地区農業者トレーニングセンターは現在、市の指定避難所にはなっていない。建築後29年を経過しており、耐震補強と大規模改修を予定しているのでその後、避難所として利用することも考えたい。



関連質問

伊東 洋子さん

1. 芦安地区について

(1) 家屋が点在し、高齢化が進む芦安地区において、水害発生時の避難対策はどうなっているか。



【答弁】

- 1 - (1) 芦安地域への避難対策については、まず、情報を把握し防災無線等で周知、また、職員を配備し、市民にいち早く避難してもらえる体制づくりをしている。避難勧告については、状況判断を的確に行い早い段階で発信できる体制づくりを整備している。



質問

西田 ジャケリネさん

1. 外国にルーツを持つ子どもたちの教育について

(1) 外国人保護者は日本語が正しく理解できず、学校との間に誤解が生じる場合がある。スムーズな意思疎通が出来るような支援について市の考えは。また、日本語教育等学習支援についての考えは。

【答弁】

- 1 - (1) 外国人保護者への対応は、担当が外国籍児童生徒のお宅へ訪問し保護者への説明をしたり、その国の言葉を使った通知の作成、また、学校応援団に登録されている地域の通訳の協力も得ながら対応している。
学習支援については、今後更に日本語教育の充実、また、教室への送迎等の支援等、ボランティアの数も拡大しながら進めていきたい。



関連質問

小野 なつ子さん

1. 外国にルーツを持つ子どもたちの教育について

(1) 在住外国人教育に対し地域の学校に対する市の考えは。

【答弁】

- 1 - (1) 保護者への説明については、入学時の学校説明や中途からの就学では、各学校において個々に対応して理解してもらえるよう務めている



質問

荻原 まゆみさん

1. 南アルプス市のまちづくりについて

(1) 自治会への加入について、転入者、また未加入者に対しどのような対応をしているのか。

【答弁】

- 1 - (1) 転入者については、パンフレットを配布し加入を呼びかけている。また未加入者については、広報紙・CATV等を活用してお知らせしている。今後、自治会組織の見直しを進める中でも未加入者に対する働きかけをしていく。

(2) 市のロケーション、町並みは今後どのように作っていく考えか。「観光カリスマ」の出るような観光開発を進めているのか。また白根、南アルプスインター付近の開発について、市長の構想は。

(3) 国道52号線の小笠原商店街の今後について市長の考えは。



関連質問

内藤 洋子さん

1. 自治会の加入について

(1) 現在の自治会加入率は。また、自治会加入率100%達成は何年後か。

1 - (2) 櫛形山からの眺望は、日本一の富士山、第二位の北岳、八ヶ岳が見え、その眼下には、里山エリアから田園エリアへと広がり市民と都市住民が交流するなかで、遊休農地を活用した新たな農業を中心としたまちづくりを考えている。また、南アルプスIC及び白根IC付近の開発については、フルーツ公園構想による拠点整備として、農産物直売所、フルーツパーラーや農村レストラン等を併設した農業の6次産業化の拠点が市内全域への地域活性化に繋がることとして期待している。

1 - (3) 市民からいろいろなアイデアを出してもらい、小笠原商店街も復活させ素晴らしい魅力ある南アルプス市をつくっていききたい。

【答弁】

1 - (1) 現在加入率は75.8%。
今後も、市民の皆様の理解をいただきながら、できるだけ100%に近づけていきたい。



質問

久保田 美子さん

1. 皆で支え合い心豊かな地域の構築について

(1) 南アルプス市における児童虐待、高齢者虐待、自殺などへの対策と、今後市民とのネットワークづくりについての考えは。

(2) 保育園を中心に高齢者や子ども、赤ちゃんと母親、障害のある人、ない人が一緒に時を共有できる施設の構築についての考えは。

【答弁】

1 - (1) 児童虐待防止には、子育て支援課、高齢者虐待には介護福祉課の包括支援センターにそれぞれ、保健師・専門職をおき、また、関係課・関係機関とも連携を図り虐待防止に努めている。自殺防止については主に相談業務により対応している。市では来年度から、福祉に関する相談を、よりの確・迅速に対処するため、新たな体制で取り組めるように組織の再編を進めている。また、市民とのネットワークづくりについては、子育て団体と23年度から、社会福祉協議会と24年度から進めていく。

1 - (2) 市内の保育所では運動会や生活発表会において、高齢者や地域、小中学生との交流を実施している。また児童館の母親クラブによる地域と子どもの交流、社会福祉協議会による地域の人たちとの交流等を年間通して実施している。施設の新設については考えていない。



関連質問

西室 智恵子さん

1. 親育ち支援について

(1) これから親になる人の「親になるための学習」「親としての学習」に取り組むことが課題となるが「親育ち支援」について市長の考えは。

【答弁】

1 - (1) 社会学級、社会教育、生涯学習等の中で「親になるための講座」を設けるとともに子育てのみならず親育ちを支援するNPOもつくり支援していきたい。



質問

沢登 久子さん

1. 生命の貯蓄体操の普及について

(1) 生命の貯蓄体操の普及に今後も市としての支援が継続できるのか。

(2) 生命の貯蓄体操の普及により健康を維持でき、医療費の節約に繋がると思うが、現在高齢者の医療費の額はどのくらいなのか。

(3) 会場確保に大変苦慮している地域もあるが、年間予約をすることが可能なのか。



【答弁】

1 - (1) 市として健康長寿のまちづくりを推進していく上でも、生命の貯蓄体操は必要と考える。今後もより多くの市民への普及を図るため継続して支援を行っていききたい。

1 - (2) 現在、75歳以上の後期高齢者医療費は市内全体で63億3,400万円。1人当たりの医療費は78万3,365円、国保については、74歳以下の家族の方の55億6千万1人当たりの医療費27万9千円である。国保と高齢者医療を比較すると後期高齢者医療が国保の3倍近くになっている。

1 - (3) 市内の公共施設、公会堂・集会所については申し込み団体の公平性を図るため申請日等が決められている。全ての使用者が公平に使用できるよう各施設の決まりに沿って利用をお願いしたい。



関連質問

清水 久子さん

1. 生命の貯蓄体操の普及について

(1) 生命の貯蓄体操を小、中学校の体育の授業に取り入れることが可能か。

【答弁】

1 - (1) 小中学校では、学習指導要領に沿った内容で授業が行われており児童生徒の発達段階を踏まえた指導内容の明確化や運動の系統性を図る中で確実な定着を目指して努力している。生命の貯蓄体操の効果は認めているが、現状では小中学校の体育の授業に取り入れることは難しいと考える。





質問

保坂 弘子さん

1. 防災における安心・安全な地域構築について

(1) 各地区の防災リーダーの育成と地域住民への伝達と訓練はどのように連携されているか。

(2) 危機管理室を充実し、市民の生活を安心・安全なものとするが、各地区の防災リーダー組織はほとんどが男性。危機感を共有する上でも男女の構成が必要と考えるが、市長の考えは。

【答弁】

1 - (1) 現在、市に128の自主防災会があり550名がリーダーとして登録されている。

市では、リーダーの養成講習会・講演会等を行い、得た知識や情報を地域へ帰り伝達をしていただくことにより地域の防災力が向上するものと考えている。

1 - (2) 今後想定される東海地震等の様々な災害や危機管理に対応するため危機管理室を設置し、更に本年防災専門官を設置し、充実を図った。

また、防災リーダーにかかわる男女の構成については、現状の防災リーダーは全員男性である。今後、防災に対する女性の視点の必要性からも女性の積極的な参加を推進していきたい。



関連質問

齊藤 綾子さん

1. 防災における安心・安全な地域構築について

(1) 災害時にスーパーも品物を提供してくれるという協定を南アルプス市は結んでいるか。

【答弁】

1 - (1) 現在、スーパーと物資協定は結んではないが、「わらべや」・「日洋」等市内の企業などと応援協定を結んでおり、災害発生後の物資による支援をいただけることになっている。



関連質問

佐々木 文子さん

1. 防災における安心・安全な地域構築について

(1) 南アルプス市の備蓄倉庫は何処にあり、何が備蓄されているか。また災害時の配布の手順は。自宅避難している人たちの支援物資の確保などはどうなっているか。

【答弁】

1 - (1) 備蓄倉庫は、旧町村単位で6ヶ所、防災センターに1ヶ所計7箇所あり、備蓄食糧、毛布、機械器具など90種類以上を備蓄している。

配布手順は、避難所開設運営マニュアルにより、災害対策本部に物資分配班が設置され緊急車両を配備し配送している。また自宅避難者への救援物資の配布についても、情報の入手関係で若干の遅れはあるが配送していく。



質問

菅本 ひとみさん

1. 農産物の安全対策について

(1) 南アルプス市内の農産物の安全対策はどのようになっているのか。

(2) 地産地消について市の考えは。

【答弁】

1 - (1) 今のところ、放射能については、南アルプス市への影響はほとんどない。今後も農協と連携をとりながら安心、安全に努める。

また、農薬についても農協の専門職員が生産者に対し残留農薬を基準値以下に抑えるよう指導し、安心・安全に努めている。

1 - (2) 小中学校・保育所の給食に地元の農産物を使用し地産地消の拡大に努めている。また、消費者と生産者の良い関係の中で市民にも協力をお願いしていく。更にフードマイレージの削減を図り地産地消を推進していく。

【答弁】

1 - (1) 今のところ、既存のほたるみ館、まちの駅、八田の直売所等を充実し活性化していきたい。

【答弁】

1 - (1) 現在、米・もち米が87%、水菜83%、キュウリ・トマト・ナスは70%以上、さくらんぼ、スモモは100%の利用割合となっている。今後も学校栄養士の創意工夫により、地元地産食材を用いた献立を立て安心・安全な給食を提供し、食に対する関心を高めるようにしていきたい。



関連質問

井上 絹子さん

1. 農産物の安全対策について

(1) 南アルプス市に身近な農産物直売所が必要だと思うが市の考えは。



関連質問

櫻林 美代子さん

1. 農産物の安全対策について

(1) 学校給食における地産地消の現状は。また、今後どのような対応策を考えているか。



平成23年度 女性議会 議員名簿

1 番 大堀 ゆき子
5 番 小野 なつ子
9 番 保坂 弘子
13 番 駒井 春美
17 番 井上 絹子

2 番 篠原 操
6 番 久保田 美子
10 番 齊藤 綾子
14 番 内藤 洋子
18 番 櫻林 美代子

3 番 伊東 洋子
7 番 西室 智恵子
11 番 佐々木 文子
15 番 沢登 久子
19 番 清水 祝子

4 番 西田 ジャケリネ
8 番 清水 久子
12 番 荻原 まゆみ
16 番 菅本 ひとみ

発行日/平成24年3月 発行/南アルプス市 編集/市民部 みんなでまちづくり推進課
〒400-0395 山梨県南アルプス市小笠原376 TEL 055-282-1111 (代) FAX 055-282-1112 (代)
HP <http://www.city.minami-alps.yamanashi.jp/>

